

3. 食害の影響防除試験

方法：昭和51年7月から8月にかけては転石に着生しているホンダワラ成藻を選び、転石とも採取し、即日実験漁場に移送した。比較的大型の魚類の食害を防止するため、図-5に示すとおり、12節のクレモナ網を使った保護網を施設し、移植藻はその内外に、等分量宛配置した。

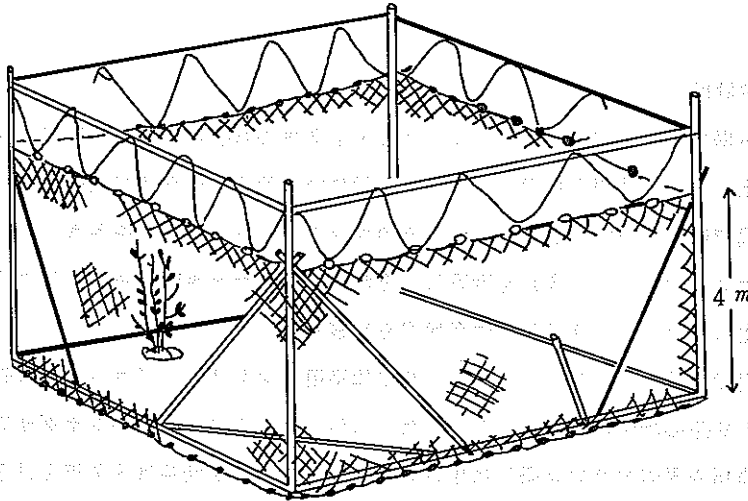


図-5. 保護網

亜鉛びき鉄パイプ 口径4.5cm×5.5m×24本
自在クランプ32個 クレモナ網12節 23m

藻量は実験場各々約400kgである。

また、10月から11月にかけてはSp. 1 (ツクシモク)、Sp. 3 (カラクサモク) 等の成熟母藻を建築用コンクリートブロックに1~2kgあて結びつける方法によって配置し、採苗後の経過をみた。なお、各実験漁場に生息する底生動物の種類を表-4-1、4-2に示した。

表-4-1. 移植藻投入地点およびその周辺に生息する底生動物 (前兼久実験漁場)

月日		東	南	西	北
	移植投入地	(ニセクロナマコ 1 ジャノメナマコ 1 マガキガイ 4)			
12月14日	50 m	マガキガイ 1 ナガウニ 2	クロナマコ 1 オオイカリナマコ 1 アンボンクロザメガイ 1	マキガイ 2 クロナマコ 2	ナガウニ 9 クロナマコ 5
	100 m	ナガウニ 2 クロナマコ 2 ナマコの種類 1 ヒラメの種類 1	クロナマコ 1 マガキガイ 4	クロナマコ 2 ニシキウズ 1 マガキガイ 1 ナガウニ 16 ヒメジャコ 2	ナガウニ 3 マガキガイ 2
	移植投入地	(オオイカリナマコ 1、ハネジナマコ 1)			
77年2月1日	50 m	マガキガイ 3 クロナマコ 1 ナガウニ 2	シカクナマコ 1 クロナマコ 1 ナガウニ 1 マガキガイ 5	クロナマコ 3 ジャノメナマコ 1 ニセクロナマコ 1 マガキガイ 1	マガキガイ 5 クロナマコ 1 ジャノメ ナマコ 1
	100 m	マガキガイ 1 クロナマコ 1	ニセクロナマコ 2 クロナマコ 1 マガキガイ 4 シラヒゲウニ 2	クロナマコ 1 ナガウニ 1 マガキガイ 5	マガキガイ 1 ジャノメ ナマコ 1 クロナマコ 1 オオイカリ ナマコ 1

表-4-2. ワイヤメッシュ施設内 (1.5 × 6 m) 当りの底生動物 (泡瀬実験漁場)

調査年月日	ワイヤメッシュNo	ナガウニ	シラヒゲウニ	ニシキウズガイ
77-1-18	1	83	1	0
	2	102	0	1
	3	13	1	0
	4	26	1	0
	5	68	0	0
77-2-23	1	15	0	0
	2	8	0	0
	3	19	1	0

ジャノメナマコ Conomurex Iuhnanus ニシキウズガイ
 ニセクロナマコ Holothria Leucospilota Trochus maculatus
 クロナマコ " atra ヒメジャコ
 ジャノメナマコ " argus Tridacna (chmetrachea)
 ハネジナマコ " scabra Crocea
 オオイカリナマコ Synapta maculata
 シカクナマコ Stichopus chlorontus
 シラヒゲウニ Tripneustes gratilla
 ナガウニ Echinometra mathaei